

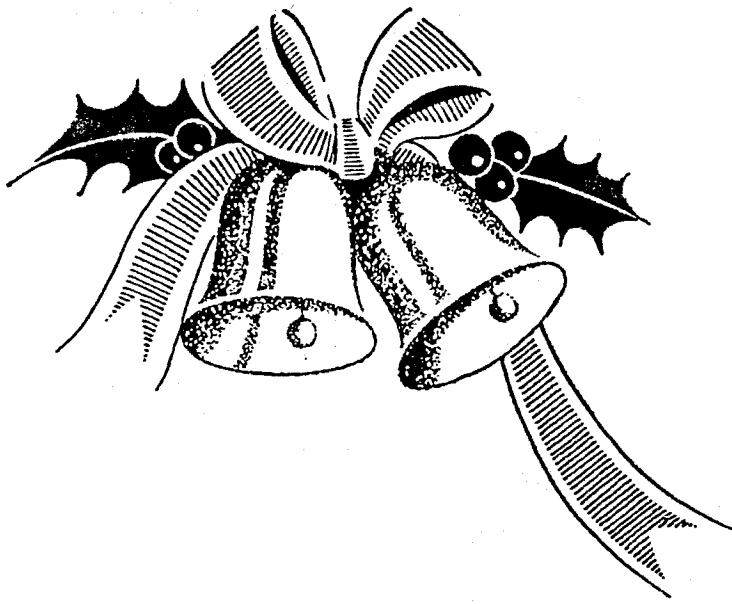
聖徒の道



1959

12月号

末日聖徒イエス・キリスト教会



Merry Christmas



株式会社 丸ビルタイプショップ

千代田区丸の内丸ビル2階 電話 (20) 0979・3698・5959

ジーマッグタイプライター } 日本総発売元
アンタレスポータブルタイプライター }
オドナー計算機 }

其の他各種英・和文タイプライター・手動・電動計算機販売・修理



ジョセフ・スミス
1805年12月23日ヴァーモント州シャロンにて生る
(東京北支部 石川善二郎画)

聖 徒 の 道

目

次

一九五九年十二月号

【予言者のことば】

大いなる喜びの音ずれ……………

大管長 デビッド・O・マッケイ……………2

【伝道部長メッセージ】

愛と喜びと平和と……………ポール・C・アンドラス……………5

「バプテスマ」(モルモンの教義)……………佐藤 竜 猪……………8

【極東に於けるモルモン】

私の 体 験……………安 芸 宏……………12

私の 改 宗……………今井美保子……………13

最も偉大なもの(求道者向)……………

ジョン・A・ウィヅソー……………15

リーヴアイ・エドガー・ヤング……………

アルバート・L・ゾベル・ジュニア……………18

モルモン経物語(完)……………26

伝道本部だより……………29

系図に関する質疑応答……………22

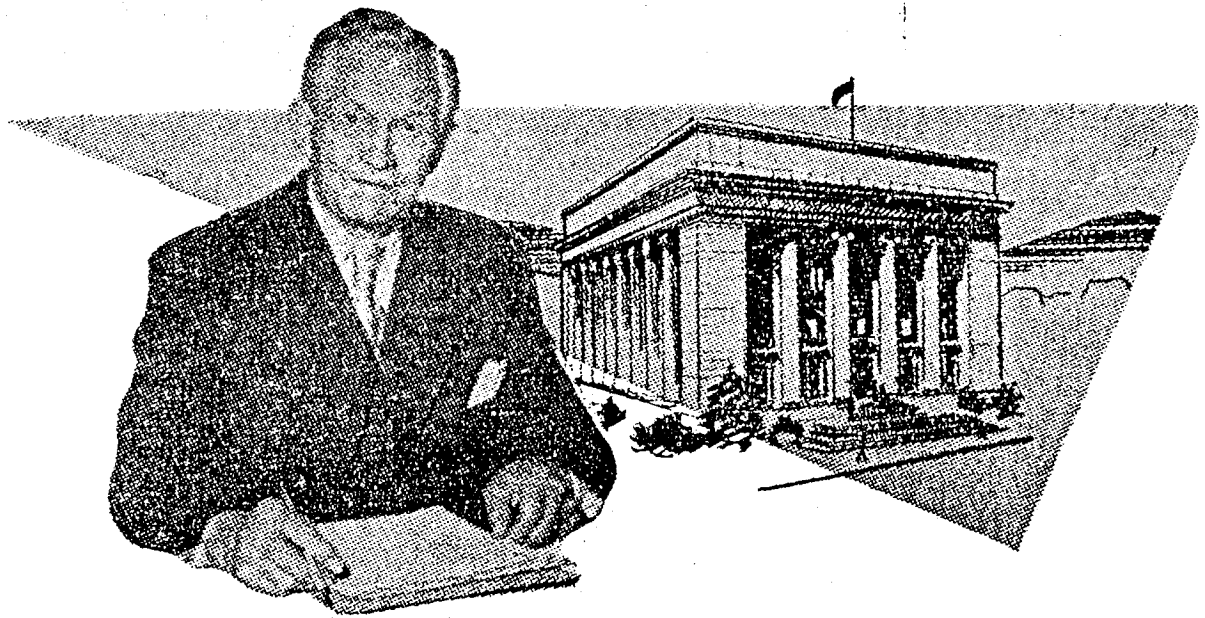
松本支部訪問記……………渡部 正雄……………24

「海外トピックス」

ペンソン長官ロシアで説教する……………30

モルモン経六冊、フルシチョフ一家に贈呈……………31

休憩室……………21



予言者のことは

大いなる喜びの音ずれ

大管長 デビド・〇・マツケイ

「この地に野宿して夜、群を守り居る羊飼ありしが、主の使その傍に立ち、主の栄光そのまわりを照らしたればいたくおそる。御使かれらに言う『おそるな、見よ、この民一般におよぶべき大いなる喜びの音ずれをわれ汝らに告ぐ。今日ダビデの町にて汝らのために救い主生れたまえり。これ主キリストなり。なんじら布にて包まれ、馬ぶねに臥し居るみどり児を見ん、これそのしるしなり』たちまちあまたの天の軍勢、御使に加わり神を讃美して言う『いと高きところには栄光神にあれ。地には平和、人に対しては善意あれ』（ルカ伝二〇八―十四）と。

これはいつ聞いても最も楽しい話である。そして、この話は幾度くり返されても常に感動と満足とを与える。それは人生の意義を大いにその中に持っているからである。

この舞台は、歴史的の興味から言うとその上に位するものがエルサレムだけであるパレスチナの一都市ベツレヘムである。ミカ書第五章でダビデの市ベツレヘムを予言者ミカはメシヤの生れたもう所であると言っている。私は、このキリストの誕生が啓示された羊飼たちは、夜その羊の群を守っているとき、すでにその予言を心に止めていたのではないかと思っている。神の啓示は、人がそれを受ける用意をしているのでなければ、また人がそれを受けるにふさわしい生活をしているのでなければ人に与えられない。悪の力は自らを

いつも人に押しつける。しかし、神は探し求められるのが常である。悪は常に押しつけている、誘惑している、また約束をしている。

神はわれらに努力をして探し求めよと仰せになっている。「求めよさらば与えられん。たずねよ、さらば見出さん。門を叩け、さらば開かれん」(マタイ伝七〇七)と、しかし、われらはまず求めなくてはならない、まず叩かなくてはならない、それであるから、私はこれらの謙遜な心の羊飼たちはすべてのユダヤ人が心に銘記していたように、メシヤがすぐに来たもうという希望をその心に銘記していたと思うのである。これらの謙遜な心の人々は神の示現をすでに迎えていた。「御使たち去りて天に行きしとき、羊飼たがい語る『いざ、ベツレヘムに至り、主の示したまいし起れることを見ん』と(ルカ伝二〇十五)。

この羊飼たちは「これは本当かしらん」と言わなかった。彼らは「このことが本当かどうか行つて見ようではないか」と言わなかった。彼らは「主が示したもうたことが起っているのを行つて見よう」と言った。これはすなわち、神はすでにその御子をあらわしたもうた、天使たちは王の王、主の主である御方があの小さなユダヤの町の一番粗末なところにほんの赤児として来りたもうたという言葉伝てを世に告げたという確信である。その確信を持っていないかも知れない君たちは、キリスト生れたまえり、キリストは生きたもう、神はあらかじめ天の使たちをしてキリストの誕生を告げ知らせたもうたという確信を心に持つために何を与えんとするか。すべての疑惑は消え失せ、この世に於けるわれわれの目的に関するすべての憂いは止むことであろう。これこそ、あのような証詞の本当の意

味である。もしもわれわれが「さあ、主が示したもうたことが起っているのを行つて見よう」とさえ言うことができたならば本当にいであらう。世の救い主イエス・キリストは、人格を具えたもう神聖なる神であるという啓示は素晴らしいことである。それは全世界の中で最も壮嚴なことではないか。それによって、クリスマスは神聖な意味があるという確信が生ずる。

価値があるのはクリスマスの精神である。われわれがイエスの兄弟であるということ、われわれがかの羊飼らが行つたように王の主の主である御方の面前へ真すぐに入つて行けるように、イエスの在したもうところへ帰つて行く生活をしたということこそその氣持ちである。

われわれは、あの羊飼たちが天使の言伝を聞いたときに持っていた確信と共にクリスマスの精神を持つてうではないか、またその精神を持ってイエスの許へ行こうではないか。その中に生命がある。われわれが神とキリストとを見出して神とキリストとを知ることができなければ、永遠の生命は得られない、それは「永遠の生命は、唯一の眞の神にまします汝と汝の遣わしたまいしイエス・キリストとを知るにあり」(ヨハネ伝十七〇三)であるからである。

われわれは如何にして天使たちの唱った平和を得ることができるか。またあの羊飼たちがマリヤが馬ぶねに臥しているあの小さな石灰石の岩屋の中で見出した平和を如何にして得ることができるか。この馬ぶねは今使われているようなものではなくて、ロバやその他の動物のまぐさが入っていてその近くにこれらの動物の番人たちが眠っていた。

われわれは如何にしてあの平和を得ることができるか。その平和は死を免れない人間が受けることのできる最大の祝福であろう。それは眠り込んでいることなく、活動していかないことでもなくて平和である。それはキリストが復活の後に十二弟子に現われたまい「平安なんじらにあれ」(ヨハネ伝二十〇二十一)と仰せになったときに意識して居りたもうた平和である。このような平和はごまかしや議論では決して得られない。エマーソンは「道が勝つのほか、何もものこの平和をもたらずを得ず」と言った。道の勝利とはまた平和を妨げる六つの敵のうち勝つことであり、私はこれらの敵を貪欲、情欲、野心、嫉妬、怒りおよび高慢と名づけた。すなわちこれらは、かの誘惑者が「誘惑の山」の上でいろいろな形で救い主に提出した六つの事である。抑制されない激情、放縱な欲望、嫉妬、憎悪、富および権力は人間を支配しまた人間を屈服するのが常であった、すなわちこれらは平和の敵である。これらは個人個人に悲惨な境遇をもたらす。これらは家庭の中に不幸をもたらす。これらは世界に戦争と争い、不満と、悲惨と死をもたらす。これらはキリストがこの世に与えるために来りたもうた平和の反対である。人々は、何故これらの敵を各自の心から出さないうちにできるだけ熱心に努力して、貪欲にうち勝ち、得るよりはむしろ与えるようにならないのか。

道が悪にうち勝つことよつてのみ、キリストがこの世に与えるために来りたもうた平和をこの世は持つことができる。私が前に指名した六つの激情を助成することよつては、かつて平和が獲得されたためしがない。「平和があればよいなあ」と言わない人に逢う

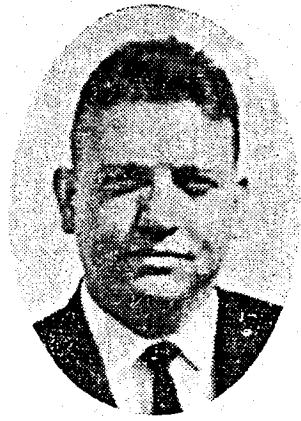
ことは少い、しかもなお平和を得るために働を喜んで払う人はきわめて僅かなようである。人は悪魔が押しつけるものにむしろかじりつく。悪魔はもしも人がそれを得るなら幸福になると約束をする。

それは本当ではない。人は人類の幸福と改善のために得るものをまず費やすのでなければ、得ることよつて平和を持つことはできない。人は同胞に奉仕することよつてのみ、イエス・キリストの福音に従うことよつて確立したいとキリストが考えたもうた平和を得ることができる。

世の中には「同胞を愛することができず前にまず神を見出さなければならぬ」と言う人々がある。真理と一致して「義しい生活を送り同胞を愛することよつて人は神を見出す」と言う方がそれ以上ではないか。

私はそれが、あの天使たちが「人に対しては善意あれ」(ルカ伝二〇四)と合唱した句の中にある言伝てであると思う。神を礼拝し同胞を愛する、すなわちこの二つの誠命に「律法の全体と予言者は……拠るなり」(マタイ伝二十二〇四十)。

君たちは、あの早いころの話の中に後にキリストが述べたもうた言伝てがあることを知っている。それは「なんじ心を尽し、精神を尽し、力を尽し、思いを尽して主たるなんじの神を愛すべし。また己れの如く汝の隣りを愛すべし」(ルカ伝十〇二十七)という御言葉であつて、この言伝ては「いと高きところには栄光神にあれ。地には平和、人に対しては善意あれ」(ルカ伝二〇十四)と唱つた天使たちが予想をしていたところである。



愛と喜びと平和と

ポール・C・アンドラス

十二月の二十五日には世界中で、キリストがお生れになったことをお祝いたします。キリスト御自身の教会の会員として、モルモン教徒は神の啓示によりキリストが実際に四月六日にお生れになったことを知っています（教義と聖約二十〇一）。しかし、それにもかかわらず私共はほかの世人と一しよになって十二月の二十五日に救い主の誕生を祝い、クリスマスととも訪れる本当にすばらしいクリスマスの精神を楽しんでいます。

クリスマスが近づくにつれて世界中が見わたすかぎり変るようになっています。人々の心はいつもより暖かになり、親切になり、楽しくなって愛と喜びと平和の精神がいたるところに見られます。この驚くべき変化はどのようにして説明ができますか。人々の心を温めて

クリスマスに平和の感じを起すものはさて何でありますか。それはクリスマスの季節に大そう多くの人々がほかの人々に物をあげるからではありませんか。クリスマスの季節になると、人々は自分たちの入用な物や欲望から注意をほかへ向けてほかの人たちの入用な物や欲望にその注意を集中いたします。人々の考えや行いは利己的か利己的でないものになります。人々は自分たちのために得ることをそんなに心にかけることをやめて、実際にほかの人たちに与えることを心にかけるようになります。当然の結果としてその心は温くなりいつもより親切になり楽しくなって、愛と喜びと平和の精神が一ぱいになります。ほかの人のためを思うこと、ほかの人のためになることをすること、またほかの人に与えること、以上がもつてな

ってクリスマスの季節に世界中にひろがる華々しい変化が起きるのであります。

イエス・キリストの誕生は、父なる神がその子供たちのことをお考えになるときに、また救いを受ける機会が神の子供たちすべてに与えられる計画をお立てになるときに、またアダムと悔改めをするすべての者の罪を贖うぎせいとして父なる神の独り子をお与えになるときに現われている父なる神の利己的でないみこころを示しています。イエス・キリストの贖罪と復活とによって、神はこれまで地球上に生を受けたことのある人間に、またこれから地球上に生を受ける人間に一人一人完全になった不滅の体というすばらしい賜物を下さることになって居ります。神は私たちに、死にうち勝つ勝利といつまでも限りなく変ることなく健康と活力の絶頂にある体の中にある限りなき生命を下さって居ります。何とこれは本当に偉大な賜物ではありませんか。かつて肉体を病んだり傷つけたり虚弱であったりした人々は一人のこらず、この偉大な賜物が大きいだけにそれだけ大きく有難いと思うことができます。この復活して完全になった不滅の体という賜物は大きな賜物であっても、万人に全く無償で与えられる賜物であって、イエスがその復活して完全になった不滅の体を着て墓から出たもうたように私たちも一人のこらずそのようになるにちがいありません。

しかし、完全になった体の中にある限らない生命よりもっと大きな賜物があります。それは永遠の生命、言葉を換えて言うとな

る神が送っておいでになると同じ種類の生活であります。それは完全になった体の上に完全になった性格が加わった賜物であります。

現在の性格に弱いところまたは不完全なところのある人は誰でも皆このような弱点や不完全がなかったならどんなによい生活になるであらうということを少くとも或る程度認識することができます。私共の存在のあらゆる面に於て完全になること。換言すれば神と同じようになり、神の経験したもうと同じことを経験し、神の生活と同じ生活をする、これがあらゆるものの中で最大の賜物であります。イエス・キリストの贖罪によって天の父なる神はこのあらゆるものの中の最大の賜物を神の子たちの手に入るようにしておいでになります。しかし、限りなき生命とちがって永遠の生命という賜物は無償ではありません。永遠の生命という賜物は働きのよって得なければなりません。それでありますから働いて得る人だけがそれを受けるにちがいありません。神はイエス・キリストとその予言者たちを通して、永遠の生命を働いて得るために為さねばならぬことを一つのこらずはつきりと明かしておいでになります。これまで地球上に生を受けたことのある人、またはこれから地球上に生を受ける人は一人のこらず皆この永遠の生命を働いて得る公平な機会を与えられます。しかしながら、この機会を正しく利用する人々だけがこのあらゆるものの中の最大の賜物を受けるであります。それにもかかわらず、これは神の賜う賜物として万人が手に入れることができるものであります。

クリスマスの深い意味はヨハネの「それ神はその独子を賜うほどに世を愛したまえり。すべて彼を信ずる者の亡びずして永遠の生命を得んためなり」(ヨハネ伝三〇十六)という言葉の中によくまとまっています。ルカは、救いの大計画の中の中心人物である神の独り子の誕生の発表を印象深く描写しています。

「この地に野宿して夜群を守り居る羊飼ありしが、主の使その傍に立ち、主の栄光そのまわりを照らしたればいたくおそる。御使かれらに言う『おそるな、見よ、この民一般におよぶべき大いなる喜びの音ずれをわれ汝らに告ぐ。今日ダビデの町にて汝らの為に救い主生れたまえり。これ主キリストなり。なんじら布にて包まれ、馬ぶねに臥し居るみどり児を見ん。これそのしるしなり』。たちまちあまたの天の軍勢、御使に加わり、神を讃美して言う『いと高きところには栄光、神にあれ。地には平和、人に対しては善意あれ』」(ルカ伝二〇八―十四)。

このクリスマスの季節に、わが教会の会員一人一人の心が愛と喜びと福音の平和に充たされ、私共が生涯を通じていつも永遠の生命を受けるにふさわしい生活を送りますように。あらゆるものの中の最も大きな賜物を受けることをこわってよいでしょうか。

クリスマス・キャロル

広島 内藤 良子

月の明るいクリスマススイヴ
るうそくのあかりは揺れて
私の家にも聖歌隊は訪れてまい

りました

おやすみなさい!!

おやすみなさい!!

親しい声も遠ざかり

その夜は更けてゆきました

しばらくたつて私は夢を見てい

ました

Lさんの可憐なすがた

Mさんの清らかなひとみ

Nさんの優しい頬

Oさんもおりました

Pさんも…… Qさんも……

みんなみんな輪になつて

私をとり囲んでおりました

みんなみんな声はりあげて

歌をうたつて下さいました

どこを見ても笑っている顔、輝

やいている眸

どつちを向いてもこだまする清
らかな歌の声

おゝ、明るい!! 明るい!!

真昼の日より明るく映えており

ました

おゝ、楽しい!! 楽しい!!

私の心は喜びで一杯になりました

た

みなさんありがとうございます

ありがとうございます

私の目から涙が光って落ちまし

た

窓を照らす月のあかりに

私は目がさめましたけれど

ひとり私は夢をしのんでおりま

した

クリスマスキャロルありがとう

クリスマスキャロルありがとう

私は天上の幸せの中におりました

た

「バプテスマ」(七)

佐藤龍猪

汝ら水と、血と、わが創りし霊とによりてこの世に生れたれば、塵よりして生ける「霊の結合体」となりぬ。されば、誠に汝ら水と「みたま」とによりて再び生れ、わが生みし独子の血によりて清められて天の王国に入らざるべからず。

(高価なる真珠、モーセの書六〇五十九)

一、バプテスマの本質

アダムがエデンの園に居たときの生活は「霊の生活」すなわち神の御前に在る生活であった。ところがアダムは神の誠命に背いてエデンの園を追われもはや神の御前に居ることができなくなった。これはすなわち以前と全くちがった生活「霊の死」の生活であつてアダムは神の御前から締め出され隔離されてアダムと神との交わりは断たれてしまった。それであるからエデンから「堕ちた」アダムは「霊の死」の状態に在

った(教義と聖約二十九〇四十一)。「霊の死」は神の前からの追放である。如何にしてこの死から復活して原の生活に復ることできるか。それは死んで「水に葬られ」、「神のみたまを受けて」霊の復活、再び原の生活すなわち「霊の生活」へ復ることである(ジョセフ・フィードリング・スミス長老著「救いの教義」第二卷三二六頁)。「アダム主に向いてよばわりたるに、主のみたまによりとらえられ行きて水の中に引き込まれ、水中に沈められて、また水中より引き出されたり。かくの如くアダム

はバプテスマを受け、神のみたま彼に下れり。かくして、彼はみたまによりて生れ、内なる人に於て生かされたり」(高価なる真珠モーセの書六〇六十四)。

悔改めをせず福音を信じない者はすべて「霊の死」を受けている。すなわちこれらの人々は「霊の死」に属している者、神の御前から追放されている者である。これらの人々は如何にして神の御前に在る生活すなわち「霊の生活」に復ることができるか。それは始祖アダムに示された模範通りに「水に葬られ」、「神のみたまを受けて」、「霊の生活」によりがえることである。これがバプテスマの本質である。

二、水に沈めるバプテスマ

普通に洗礼または浸礼とも言われているバプテスマの儀式にはいろいろのちがった様式があつて、水を頭や額にふりかけたり、水に浸した手指を頭の上においたりその様式はいろいろである。しかし正しい様式のバプテスマは「全身を水に沈める」バプテスマである。バプテスマという言葉はもとギリシヤ語から出た言葉であるがそれはいつの時代でも「水に沈める」という意味に使われてい

る。正しいバプテスマの様式は「全身を水に沈める」以外にない。それは(一)バプテスマは死と葬りと復活とをそっくりそのまま表わすはずであるからである。(二)バプテスマはまた誕生であつてこの世に嬰兒が生れてくる誕生をそっくりそのまま表わすはずであるからである。すなわちはしがきの聖句にある通り、人は「水と、血と、わが創りし霊とによりてこの世に生れ」た。人は

「水とイエス・キリストの血と神のみたまとによつて」神の御国へ生れ出るのである。(三)バプテスマは復活の象徴であるばかりでなく、また文字通り罪の生活から霊の生活へ復活することであるからである(前項バプテスマの本質参照。ジョセフ・フィードリング・スミス長老著「救いの教義」第二卷三三四頁)。

また聖書にある記事もそのバプテスマが「水に沈める」バプテスマであることを表わしている(マタイ伝三〇十六―十七、マルコ伝一〇十一―十一、ヨハネ伝三〇二十三使徒行伝八〇三十六―三十九参照)。

千八百三十年四月、予言者ジョセフ・スミスを通して教会に与えられた啓示(教義と聖約第二十章)には、どのような方法で

バプテスマを行うべきかが明らかに教えてある。すなわち

「およそ、すべて悔い改むる者には左の方式によりてバプテスマを施すべし。神の召を受け、イエス・キリストよりバプテスマを施す権能を授けられたる者は、バプテスマを受けんと出頭したる男、または女と共に水中に下り立ち、その男または女の姓名を呼び上げて次の如く言うべし『われはイエス・キリストより権能を受けたれば、天父と御子と聖霊との御名に由りて汝にバプテスマを施す、アーメン』と。かく言いて、その男または女を水中に沈め、而して再び水より出で来るべし」と(教義と聖約二十〇七十二―七十三)。

三、バプテスマは救いに 欠くべからざるもの

バプテスマの特別な目的は罪を赦すと共に神の教会へ入る許可を与えるにある。バプテスマが罪の赦しを得る一つの方法であることを示す記事は聖書の中に度々現われている。すなわち「人は水と霊とによりて生まれずば神の国に入ることを能はず」と仰せになったキリストの御言葉(ヨハネ伝三

〇一―五)、バプテスマのヨハネが荒野に於て「罪の赦しを得ざる悔改めのバプテスマ」を宣べ伝えたこと(マルコ伝一〇四、ルカ伝三〇三)、タルソのサウロ(後のパウロ)が彼に頭われた主の栄光によつて盲目になつた後アナニヤの所に導かれたところ、アナニヤはサウロに按手をして彼の視力を回復させ、罪の赦しを得る方法としてバプテスマを彼に教えたこと(使徒行伝廿二〇十二―十六)、ベンテコステの日に奇蹟を目のあたりに見て驚ろき、ペテロの言葉を耳にして「心を刺され」た人々に「汝ら悔改めて、おのれの罪の赦しを得んためにイエス・キリストの名によりてバプテスマを受けよ」と言った、ペテロの言葉(使徒行伝二〇三十七・三十八)などはその例である。

教会に加入することをねがう候補者は主イエス・キリストを信ずる信仰を獲得してこれを言い表わし、自己の罪を真心から悔い改めた人たちである。またねがいがかつてバプテスマを受けた人たちはバプテスマを受けたときに自分の力の限りを尽して神の誠命をすべて守り、「神の口」から出るあらゆる言葉に従つて義しい生活をする誓約をした人たちである。神の真の教会の会員になつて、バ

プテスマの際に誓った誓約を欠けなく履み
行う者が眞の救いを得るのであり、バプテ
スマがキリストの羊の群に入る門であり教
会に入る正門である以上、バプテスマが救
いに欠くべからざるものであることは明ら
かである（信証講義第六〇五―十一参照）。

四、幼児のバプテスマ

「眞にへりくだりたる心と悔いる精神」
を持ち「眞に自己の罪を悔い改め」ること
がバプテスマを受けるに適う根本条件であ
る（教義と聖約二十〇三十七）。これらの
条件は物事の判断ができる年齢に達しない
者に適用することはできない。このような
年齢に達しない幼児（満八才に満たない幼
児、「教義と聖約」六十八〇二十七参照）に
バプテスマを施すことは無意味でありまた
不合理である。およそ幼児を不届な悪者で
あると思う人は一人もない。幼児は罪を犯
していないから（マタイ伝十八〇一―五參
照）罪の赦しを受ける必要がない。幼児が
この世の罪に汚れないうちに世を去るとき
は、バプテスマを受けていなくても神のパ
ラダイスに迎え入れられる（信証講義第六
〇十三）。これを否定する者はキリストの

憐れみとキリストの贖罪を否定する者であ
る（モルモン経モロナイ書第八章、モロナ
イにあてたモルモンの手紙「幼児は悔改め
とバプテスマの必要がないこと」、教義と
聖約二十〇七十一、六十八〇二十七参照）。

五、「再度のバプテスマ」

前に述べたことから知れるようにバプテ
スマには二重の目的がある。一義的にはす
なわち罪の赦しであり、二義的にはすなわ
ち教会に加入するのを許すことである。あ
る人がバプテスマを受けて教会員になつて
から何かの理由で教会から破門をされ、そ
の後悔改めて再び教会に入りたいと思うな
らば、必ずバプテスマを受けて会員にな
ることを許可されなくてはならない。しか
し、このバプテスマはさきに施された教会
入門の儀式をくり返すことであるからその
本質、様式、目的を異にした「再度のバプ
テスマ」ではない。

聖書の中に記された「再度のバプテス
マ」の例は少い。その少い例を見ても「再
度のバプテスマ」を施す正しい特殊の事情
があったことが明らかである。すなわち使
徒行伝第十九章一節から七節までには、ヨ

ハネのバプテスマをすましていた弟子たちが
エペソでパウロに逢いバプテスマを受けたこ
とが出てくる。パウロはこの弟子たちから聞
いたバプテスマが正しい権能のある人によ
つて施されたか、またはこの弟子たちが前
以て正しい教育を受けていたか疑わしかった
ので「汝ら信者となりしとき聖霊を受けし
か」とたずねたところ「いなわれらは聖霊の
あることすら聞かず」と答えた。そこで驚ろ
いて「されば何によりてバプテスマを受けし
か」と聞くと彼らは「ヨハネのバプテスマな
り」と言った。パウロは、ヨハネが水による
悔改めのバプテスマを宣べ伝えていた間に、
ヨハネがこのようなバプテスマはキリストが
もたらしたもう一層偉大な聖霊のバプテスマ
の予備にすぎないと言っていたことを知って
いた。それでパウロはこの弟子たちのバプテ
スマの確実性に就いて不満な点のあるのを
見、この十二人のエペソ人に主イエスの御名
によつてバプテスマを受けさせ、手を彼らの
上に按いたところ彼らは聖霊を受けたのであ
る。

同一人が何度くり返しバプテスマを受けて
もそれは罪の赦しを得る手段にはならない。
すでにキリストの教会に入った者にとってバ

プテスマが罪の赦しを得る手段であると言
つてあるところはどこにもない。教会員に
なつてから過ちを犯した者は、誠心から告
白をして悔い改めるときに赦されると約束
してある。たとえこのような人々がくり返
しバプテスマを受けても本当に誠心から悔
改めをしなければ罪の赦しは与えられない
にちがいない。(信証講義第七〇十二—十
五参照)。

参 考

列王紀略上七〇二十三—二十六・三十九
四十四、歴代志略下四〇二—六、詩篇五十
一〇七、イザヤ一〇十六、使徒行伝二十二
〇十六、テトス書三〇五、マタイ伝三〇十
六、マルコ伝一〇五・九・十、ヨハネ伝三
〇二十三、使徒行伝八〇三十八、コリント
前六〇十一、ヨハネ伝三〇三十五、ロマ書
六〇四、コロサイ書二〇十二、マルコ伝一
〇四、ルカ伝三〇三、使徒行伝二〇三十
八、マルコ伝十六〇十六、コリント前十二
〇十三、ガラテヤ書三〇二十七、ペテロ前
三〇二十一、エペソ書四〇五、教義と聖約
第二十章。

余 録

「死者の代りに受けるバプテスマ」に関
して現代に与えられた啓示(教義と聖約第
百二十七章、第百二十八章参照)は人類の
歴史に新しい紀元を開いたと言えよう。予
言者ジョセフ・スミスがその啓示を受けた
当時、キリスト教世界では人間が死ぬとき
にはその身も霊も最終的に永遠にわたつて
運命がきまつてしまふと一般に信じてい
た。もしも限らない幸福の応報を得ないな
らば、その時は如何なることがあつても贖
いを受けたり変ふことのない、限らない苦
しみがその悲惨な運命であつた。眞の神と
神の御子イエス・キリストが爲したもうた
贖いとを知らずに死んでしまつた異教徒の
国民たちはことごとく永遠に地獄へ落され
るといふ、神の正義に属するあらゆる要素
と甚しく違つてゐるこのおそろしい非道な
教義が一般に信ぜられていた。この点に関
する信仰は、フランク族の王が或る司教の
手からまさにバプテスマを受けようとした

時に、王が司教に尋ねた間に対する司教の
答がよく説明している。その王は異教徒で
あつたが、当時キリスト教と呼ばれた宗教
を受け入れようとすでに心にきめていた。
ところがもしもバプテスマが彼の救われる
ためにどうしても必要ならば、異教徒とし
てすでに死んでしまつた王の先祖はどうな
つてゐることであらうという考えが彼の胸
に浮んだ。そこでこのことを司祭に尋ねる
と、自分の宗派の中の多くの者にくらべて
思慮の足らなかつたこの司教殿は、王の先
祖たちはもう地獄へ行つてしまつてゐる、
とぶっきらぼうに答えた。「それなら誓つ
てわしは先祖と一しよに地獄へ行くつもり
ぢや」と王は言つて、それなりバプテスマ
を受けることすなわちキリスト教徒になる
ことをことわつてしまつた。——ジョージ・
Q・カノン著「ジョセフ・スミスの一生」
五百十頁。

来月号にこの「死者の代りのバプテス
マ」に就ての教義が載る予定です、お待
ち下さい。

極東に於けるエルクソン

私の体験



安 芸 宏

(西ノ宮支部第一副支部長)

最後の神権時代のために主によって備えられ召された予言者ジョセフ・スミスの堅固な信仰と従順さの証明によって回復された、神の認めたもう末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、過分の恵みによって深い幸福を味うことの許されております私が、神の息子と数えられて満十ヶ年にならうとする今、皆様と共に主の御名を讃美する機会を頂き、心から有難く感謝しております。

まず私の幸福の土台は、神様が私と同様に感情を持ち骨肉の体を具えていらつしやると

の実感であります。もちろん、神様と私の感情の豊かさは比較できませんが、愛し、喜び慰め、不義への怒りなど、その性質は同じものです。私は自分の欠点を知っておりすが、なおキリストの贖いがありますので、私が努力するとき『天の父が完全であられるように私も完全な者にしていただける』との大きな希望と喜びがあります。

私にとって幸福を味うことの出来る他の土台は、イエス・キリストと聖霊が実在すると強い証詞と経験です。

私は昭和三十二年二月から八月にかけて、私の性格の矯正と、神会の実在と、結婚問題について特別に御霊の声に接しましたので、現在では聖典が無くても、証人がなくても、

イエス・キリストと聖霊は、神様と共に私たちの進歩のため働き続けていて下さることをよく知っております。私が救主の恵みを感じ、御霊に接する機会には、神に仕える熱心と従順の度合によるわけで、全く私の意志に任されております。

最後に私は、福音と教会の活動に参加して生活の簡素化を学ぶことができ、毎日の生活を明るく過す機会に恵まれたことを申し上げます。

全ての人間が神様の子であり、かつて天上の会議のうちに、同じ場所に集ったという知恵ほど、私を他人に親しく結びつけてくれる他の方法も知識もありません。私たちは皆、兄弟姉妹として、同じ父である神様の教えを基準にして考え行動すればよいのであります。会社の社長でも同僚でも、または教会でお会いする人々にも、または妻にでも同じ原則で接し話せばよいのであります。此世は決して複雑な処ではありません。複雑で面倒な世間と感じた時は、私が父なる神様を忘れた時でした。

私が心から皆様に申し上げられる結論は、『この地上での生活は神に逢う用意をしなくてはならぬ時期』であり『試煉の時』であります。

すが決して苦しみ悩む時期でもなければ場所でもないことです。実にこの現世に在る私は、皆様と同様に幸福を得る特権を頂いて、神と御子イエス・キリストと聖霊の一致した御計画によってこの世に送られた者であり、何時の日にか、栄光の座に迎えられる資格あるものとして期待されているのであります。

私の改宗



一九五〇年九月 当時高校三年であった私が教室を出て、職員室へと急いでいる途中玄関の所に生徒たちが黒山の様になっているのを見かけました。そこには外人の女の方が英語の先生と何か話して居られる様子でした。

「どうした事だろう。我が校の生徒ともあらうものが物珍らしげに取りかこんだりしてみつともない恥かしい事だ」とそう心の中でつぶやきながらそのまゝ、目的地へと急ぎまし

す。

愛する兄弟姉妹、また聖徒の道でお目にかゝるお友達の皆様、神様が私たちに与えて下さっている恵を大切にして、共に日々の営みを感じ、主の御名を讃美しましょう。

アーメン

今井美保子

(東京中央支部)

た。翌日英語の時間に先生がこれから毎週二回外人の宣教師が課外として英会話を教えて下さるから希望者は生物教室に集合せよとの事でした。学課の中でも特に好きだった英語の事とて、出てみようかと友人と共にその会に出席する様になりました。始めは皆物珍らしさと好奇心が手伝ってか六七十人の生徒が教室からはみださんばかりにその日が来ると全校生徒の中から集まって来ました。最初は簡単な歌から始まり、アメリカの生活等話して下さり楽しいものでしたが会を重ねる毎に会話がむづかしくなつて参りました。一カ月

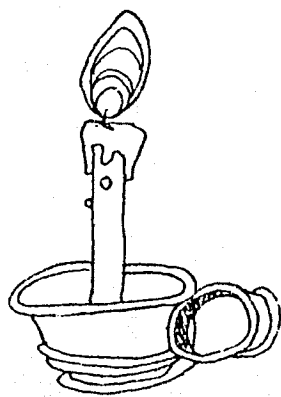
近くなつた或る時宣教師が神についての考えを英語で書いて持つて来て下さいとの事、いよいよその宿題を提出のなければならぬ日、そこに集つていた生徒のほとんどが出席しなくなりわずか七、八名になつてしまい、こんなに少くても宣教師もきつと来て下さらないだろうと英語の先生も私や友人も心配したものでした。でも毎週きまつてその日が来ると宣教師は少くとも熱心に神についていろいろ話して行かれました。未だかつて聖書を見た事もなく、読んだ事もない私がどうしてこの会に欠かさず出席し、討議したかその当時不思議でなりませんでした。もちろん語学の力をつけたのが第一の目的であつた事は間違ひなく、大学進学へと目指して勉強していた頃でしたから一生懸命でした。この外人の宣教師(アンドラデイ、カウイ両姉妹)たちと身近かに話して、耳を訓練する事、またとないチャンスであると同時に何時もそう思いながら勉強していました。会を終えてお互に個人のお話をする時、宣教師の方は何時も教会へいらつしやいと奨めて下さつた。まだその当時、無神論者を提唱していた国語教師に同調していた私がこの宣教師の方々の謙遜な態度と熱心さにうたれて行つてみようかと心か

動かされ、今も忘れない九月十七日に生まれてはじめて教会という所に足を踏み入れたのでした。未知の所と見知らぬ人たち不安と好奇心と入り乱れた何か複雑な面持で出席いたしました。その頃教会は名古屋の覚王山の相山女学校で開かれて居りました。建物は想像していた所と全く違った貧しいものでしたがこゝで初めて耳にした讃美歌は、私の心を非常に感動させました。こんな素晴らしいきれいな歌を聞いた私の喜びは何にもたとえようがない程でした。そこで歌われていた「あゝ不可思議よ、我を愛して死に給うとは」の御言葉が意味のわからないまゝ、非常に、また不思議に私の心をひいたものでした。それから友人と三人で会がある毎に出席しました。宣教師の説かれる福音について何も理解する事が出来ませんでした。たゞ聞くだけでも、日曜日になると自然に足は教会の方に向きそれと共に木曜日の会にも出席する様になりました。それが当然の事の様になって参りました。この変化にきづいた家族の者がことごとく反対しましたが、その家族の反対がなお私にとって一つの大きな刺激となり、もっとこの教会の事を知りたいという欲求にかられ色々な集会に出席し教会の方々を知るにつけま

すますこの教会の良さを見出しました。その中に家の事情で目指していた進学を断念しおつとめに出なければならなくなり、学生々活に終止符を打った私は社会人としてなれない社会の生活にスタート致しました。こゝに入つてはじめて人生に対する色々な疑問が私をおゝいはじめ、学生々活と全然違った矛盾の多い生活に非常な反撥を感じ、ますますもつて教会にいる時の喜びが大きくなり、その必要をかんじました。そんな時柳田御夫妻によつて色々教えられ導かれ、あの御家族の福音にそうた生活の幸福な日々を見て本当に一日も早く会員になりたいと願う様になり、その間いろいろこの御夫妻始め兄弟姉妹の暖かい愛情に包まれて遂に一九五二年七月二十日安息日の朝、日本ラインの上流で久保田長老よりバプテスマを受け未来の生活に新しい希望を託し、この教会の一会員としての生活に入りました。つたない何の知識もないまたその頃福音すらよく知らない私でしたが、その後伝道に出るチャンスをお与え下さるうとはだれが想像した事でありましょうか。伝道する事によって漠然としか知らなかったこの教えが本当に真実のものであると固く／＼私の心に結びつけて下さいました。数々

のお恵みをいただき今はモルモンの一家族として誕生する事が出来、神権者としての夫の良き協力を得て一男一女の母としてのつとめをつたないながらさせていただき、神様の偉大な御計画とお導きにかんしゃしながら日々を幸福に送らせていただけて居ります。私は心から主は生きたまひ私共が忠実に神様の子としてのつとめをなそうと努力する時に、心に願うすべてのことどもをお与え下さる事です。またこの教会が唯一の教えであり、幸福の源である事を証詞いたします。このすべてを主イエス・キリストの御名を通して申し上げます。

アーメン



最も偉大なもの

ジョン・A・ウイツソー

中心人物

キリスト教とは一体なんでしょう？ それはキリストによって教えられた真理と教義と生活の方式であります。クリスチャンとは一体誰でしょうか？ それはキリストの教えを受け入れそれを実行する人であります。ですからキリスト教の中心人物はナザレに生れたイエスでなければなりません。そして前から予言されていた称号キリストはその神聖な任務を示しています。

人間以上の存在

ナザレのイエスは世界の歴史的人物の中で最も大切な人物であります。

キリストの影響は全世界に行きわたり、人間とは何か異なる所がありました。他の宗教の指導者は簡単に理解出来ます、というのは彼等の努力や成功は人間的なものであります。

伝説という時代のたった殻につつまれたものも容易に認めることが出来ます。その人々はその時代の他の偉人の様にりっぱな人でありましたが、結局は人間にしかすぎませんでした。

イエスは世界の歴史の中でも特別な存在で

あり人間の標準ではとても測り知ることが出来ないのであります。キリストの簡潔な明瞭な教は他の全ての教を遙に凌ぎ人間の経験のとても及びもつかない所であります。

キリストは自分の敵を挫折し克服し、自分に従うものを励し祝福しました。何万冊という本がキリストについて書かれ、味方も敵もひとしく彼の教の永続的な偉大さと彼の侵しがたい力を認めています。

キリストは人間以上の存在であります。では一体イエスは誰でしょう。

前世に於て

前世に於てキリストは彼の父であり、私達の神である天父と共に、霊として存在していました。この世界に既に送られ、現在生きている又将来ここに送られるであろう人々も神の子として霊にて存在していました。イエスはその人々の兄でありました。

やがて、時がたち霊達はそれぞれの意志を使って活動し、その努力により進歩して多くの経験をつみました。その時天父は更に将来の進歩のための計画、即ち救の計画をおつくりになりました。神の御子キリストがこの計画を実施する指導者に命ぜられました。計画

は非常に簡単なものでした。

死を知らない霊達は過去の存在を忘れて死なねばならぬ肉体をもってこの地球に来るのとなりました。そこで悪魔に抵抗し、犠牲の尊さを学び、扱いにくい地球を征服し、病を味い、死ということを知るために！

これらのことは全てより偉大な力、より強い意志をつくり、より完全に神の律法に従い、将来のために準備し、永遠の進歩をとげることが出来るようにとの目的のもとに行われたのであります。計画は簡単ながら、永遠の霊の性質を試すことの出来るものでありました。

地球上の生活はいわば学校であり、永遠という大学の一学期にしかすぎないのであります。勿論イエスが人間を母とし、永遠の天父なる神を父としてこの計画を成就するために地球に降誕するということも計画されておりました。

贖

不滅の肉体を伴った永遠の霊のみが完全な喜びを味い進歩することが出来るのであります。墓に埋られている肉体は再び得られなければならぬということを父なる神は御約束

になりました。

御子イエスキリストは地球上の子供達のためにこれを獲得して下さいました。不滅の霊が死ぬべき肉体と結合するためにはどうしても必要でありましたが、アダムは死を受ける様になり同時にアダムの子孫達も死を受け継いだのであります。簡単な例ではこれは次の様に説明出来ますでしょう。一人の人が町へ電氣を送っている送電線を切った後他の一人がそれを再びつなぎます。すると再び電氣が電線を伝って町に送電されることになり、全人類が復活し永遠的に肉体と霊が結合することが出来る様に、イエスは自分のこの世の命を私達のために与えて下さいました。

これこそキリスト・イエスの贖いであります。

これがどの様に行われるかということは人智の到底理解出来ぬ神祕ではありますが、人類に対して測りしれない程の奉仕を与えて下さったということは確かであります。

福音という賜物

イエスはアダムの罪を贖ったばかりではなく、人間をこの地上と天国に於て真の幸福へと導く原則を、もたらして下さいました。こ

の真理、即ち福音は最初アダムに与えられ、その後も人間が真理から脱落した時幾度も与えられました。

キリストが地上に降誕した時に、彼はその時代の人々に平易な福音をお教えになりました。又永い間の霊的暗黒時代の後現在になって福音を再び恢復なさいました。各時代を通じてイエスは予言者や正しい人々の靈感を通してアダムの子孫達を正しい道に歩ませ、それによって永遠の喜びを得て進歩することが出来、神の御前に再び帰ることが出来る様に導いて下さっています。

キリストは人生行路を行く、正しき人々のために道を照らしてくれる光であります。

犠牲の律法

イエスは自分の模範を通して私達に人間の目的であり、又目的でなければならぬ真の幸福の得方をお示しになりました。完全に満足 of 行く生活は一定の条件に従うことによってのみ得られます。

まづ第一に真の幸福を求める人は福音の律法に反する全ての欲望や行為を克服しなければなりません。救を得るためには人間的な欲望、財産、そればかりでなく時には自分の生命

さえも犠牲にする覚悟が必要です。

犠牲の精神によってのみこの世から永遠に続く幸福の賜物を受けることが出来るのであります。イエスは人生の苦難を味わい世俗的な富をしりぞけ、自分の生命さえも与えて、人間の永遠の幸福のために働きになりました。

キリストの受けた苦しみは非常にひどいものであります。というのは彼の智性も体の組織も神から直接受け継いだものであります。キリストの上に集中されたといっても過言ではないでしょう。犠牲の教えはこの時キリストの生涯を通じて最高潮に達したのであります。

非常にすごかったに違いありませんが、この素晴らしい犠牲によって、キリストは自分自身でも多くの幸福をかち得ました。それは兄弟姉妹のために救の道を開けた喜びであります。私達に対する愛がこの様に大きい犠牲を可能にしたのであります。

救主

私達の敬愛する兄であり、神の御子ナザレのイエスはこの世の始めからずっと人間を見守って下さっています。頑固な意志虚弱な人

々にこの福音をなんどもくお伝えになり、この世の苦痛をなめ人間が純粋な不滅の肉体を得ることが出来る様に自ら模範をお示しになり、愛及び獻身の美徳とその必要性をお示しになり、そして今でも私達を助け導いて下さり、最後の偉大な日には我々のために弁護し、私達に永遠の生命を与えて下さいます。この人こそ私達の救主であります。

確実な知識

クリスチャンたるものはナザレのイエスが永遠の計画の成就にあたって人類の利益のために真理をお教えになり、死んでいかれたという事について確かな知識を持っていないければなりません。このような確かな知識なしでは、キリストの教えに対する信仰は弱いものであります。イエス・キリストの個人的な教え又普遍的な世の中への知らせが完全に納得の行く真理であるということは、真面目に真理を探索する人には、すぐ理解出来ることでもあります。真理の探索者はまづ自分の求めている真理と調和しなければなりません。

そしてこれは神に対して助けを求める祈によってのみ得られます。この様な祈りは更に真理を求めていくにはいつでも伴わなければ

なりません。その次にはキリストの教えた教義を真面目に研究することです。そしてこれは一切の偏見を捨てて行われるべきであります。最後にその教を日常生活に実行しなければなりません。それは実際に試すことです。イエス・キリストの神性についての完全な知識と揺がぬ確信は他の方法では絶対に得られません。

祈りを伴った、研究的な、実際の生活にあてはめた探索こそ、真理を求めている人々の心の底にナザレのイエスは神の御子、救主であり又人類の指導者であるという証を植えてくれます。

キリストに一つとなること

自分の努力でイエスはキリストであるという事、又それに伴う全ての事を知る事によってキリストと共に地上に於て、又天国に於て幸福を味わうことが出来るのであります。救の計画は全人類のためであり、イエスはその計画の中心的人物であります。クリスチャンは神の目的を達成するためにキリストと協力し、キリストに一つとなつて始めて従順という甘い実の素晴らしい味を味わうことが出来ます。

(二〇頁につづく)

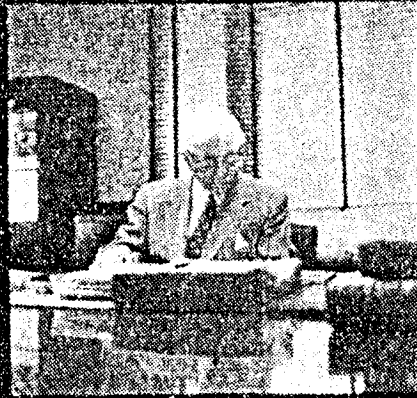
五十年の奉仕

首席会長一

アルバート・I・

ゾベル・ジュニア

(インブルーヴメントエラ調査主任)



五十年、完全なる半世紀と言うものは人の生涯に於ける長い期間である。この十月大会で、七十人会最高評議員会首席会長リーヴァイ・エドガー・ヤングはその最高評議員会の会長たること五十年に及ぶのである。彼は一九〇九年の十月六日に七十人会最

高評議員会の会員として召されたのであった。その時彼はユタ大学の七年目休暇（米国大学で七年目に一年間の休暇を与える）で東部に在って自身の学究に従事していたので一九一〇年一月二十三日、十二使徒会のジョン・ヘンリー・スミス長老がニューヨ

リーヴァイ・エドガー・ヤング

一七十七人会最高評議員会

ーク市に来る迄按手任命されなかった。

ヤング会長は生涯を通じて勉学に励み、又他人の勉学を援けた。彼は一八七四年二月二日にソルト・レーク市に生れた。若い時代に彼は旧第十二ワード部内に貸本屋を設置し、そこで彼は平均一冊五セントで貸本をしたことを憶えている。彼は一八九五年六月にユタ大学を卒業し、ソルト・レーク市で教えた。一八九七年、八年、九年に亘って彼は、ハーバート大学に学んだ（この当時、大学の勉強前の若い人たちを伝道に召すことが教会の習わしであった。そこでヤング長老も伝道に召された）

一八九九年に彼はユタ大学の教授団に史学部助教として入り四十年間その大学に籍を置いた。彼は西洋史の教授としてまたユタ大学史学部及び政治学部長としての大学教授の生活を一九三九年に終えた。彼はその大学の歴史の名誉教授の称号を保持している。

一九〇一年に彼はドイツ伝道に召された。翌年彼はスイス伝道部長に任命された。スイス伝道部はその時フランスの一部と北部イタリアと全スイスとオーストリアを包含していた。

教会幹部の一員としての早期の経験に就てヤング会長は曾て次のように言った。

「私はよく金曜日の午後授業を終えるとステーキ部大会に出席の為、すぐその足で汽車に間に合うよう

に駅に向い、又日曜日の帰りの汽車に乗って丁度月曜日の朝の授業に間に逢うと言うことが屢々あったことを記憶している。

一九二二年から一九三四年迄の二年間、彼はテムプル・スクエヤ伝道部を管理した。その時に彼は若干の美しい引用文を選びそれを情報局の壁に掲載した。「神の栄光は英智なり」「最も善き書より智慧ある言葉を探し求めよ」の二つの文は教義と聖約よりとったものである。

一九二四年の夏に彼はモルテレアルのマソクギル大学及びクエベックのラヴァル大学で勉強した。彼は早期のアメリカの歴史を含む古いフランス語の原稿を勉強する為に何週間も費した。

彼は一九三九年から一九四二年まで教会のニューイングランド伝道部長を務めた。教会員として奉仕しながら彼はニューイングランドの高度の知識層の諸機関の中に在って学者たちと親しく交わることにより非常な業績をおさめた。

ヤング会長はユタで最大の図書館の一つを持っている。彼は好んで書を読み書を書く、そして彼の書物は畢竟、教会歴史事務室、国立歴史協会及びユタ大学に利用されているのである。これ等すべておよび更に多くの機関が何年にも亘って好意ある彼の書物を受領している。彼は西部アメリカに就ての多数の著作の作者として広く知られている。

現在彼はアメリカ・クリスチャン・パレスタイン委員会の国家顧問の一員である。晩年に於て彼は相互の目的および目標の理解に努力する国民の宗教指導者たちの仲間に加わった。

教会の大いなる指導者の地位に自分自身を提供するに五十年間は長い期間である。けれどもそれはヤング家に於ける伝統的家風に過ぎないのである。リーヴァイ・エドガー・ヤングの祖父のジョセフ・ヤング会長は一八三五年二月二十八日カートランドに於て、ジョセフ・スミスによって選ばれた最初の七十会最高評議員会々長の一人であった。ジョセフヤング会長は一八三七年四月から一八八一年六月十六日ソルト・レーク市で死ぬまで首席会長を務めた。ジョセフ・ヤング会長の息子セイモア・B・ヤング会長は一八八二年の十月大会で、七十人会最高評議員会々長に召され一八九二年四月に首席会長となり一九二四年十二月十五日ソルト・レーク市で死ぬ迄その職を務めた。彼の息子のリーヴァイ・エドガー・ヤングは一九四一年五月からその同じ職を務めて来たのである。

セイモア・B・ヤング会長の孫でリーヴァイ・エドガー・ヤングの甥のS・S・デイルウ

オース・ヤングは一九四五年の四月大会で七十人会最高評議員会々長に召された。

一つの家族で四人の者がこの神権の時代に予言者ジョセフ・スミスによって最初に組織された、七十人最高評議員会に迄遡る期間に亘つて一五二年以上の奉仕をしたのである。その内祖父、父、息子の三人は合計九十四年以上の首席会長を務めた。

これですべてではない。セイモア・B・ヤング会長の他の息子、クリフオード・E・ヤング長老は一九四一年四月から彼の死んだ一九五八年八月迄、十二使徒会補助を務めた。

リーヴァイ・エドガー・ヤングはそのつれあいヤング夫人と共にイースト・サウス・テムプルに五十二年以上の静かな生活を送っている。彼等は多くの幸福な時間、いろ／＼の興味ある活動を共に分かち合っているハリエツト(ミツチエル・クライン夫人)ジェーン(ルロン・ラウソン夫人)およびエレアナ(ハリス・ヴァン・オルデン夫人)の三人の娘が、楽しい彼等の一家団らんをなしている。

(「最も偉大なもの」つづき十七頁より)

イエスはただ一つの教義を教えになり、ただ一つの律法をお与えになりました。イエスによつてしかれた真直ぐな細い道を歩きたがらない人々が、教義や律法を変える時にはこの楽な満足や統一は得られなくなります。

人間によつて変えられない、救主のそのまの教えを受け入れ、従うことが神をよるこばせ真理の光の中を歩く唯一の方法であります。

イエス・キリストの教会は主の律法に完全に従つて、主と一つになる道を教えるはずであります。ですから主に完全に受け入れられる教会は唯一つであります。

今日イエス・キリストの本来の教会が回復されました。

ナザレのイエスはその中心人物であり、その変らざる教はその案内であり、人間に新しく与えられた権威は真の教会が存在する根本の力であります。

×

×

×

×

○

○

○

○

「クイズ」

「ゲイロード・ハウザー博士」と

「智恵の言葉」

無題

用事があってそとへ出たときレストランへ立ちよって食事をとることがある。するとたいてい「お茶」が出される。「お茶はいただかないから、どうか素湯を」とたのむと妙な顔をして「へえー、茶だちでございますか御信心なこと」と挨拶をされるが、時には「どんな願をおかけになつて」と聞かれることがある。そこで聞き直つて「永遠の生命をいただきたいので」と答えると、たいていは「ははあ?」と言つて浮かぬ顔つきでひっこんでしまうのが例である。中には「長寿法でございますか」と一人台点をして行く者もあるが、「永遠の生命とはどんなもので」と切り込んでくる篤志家にはめつたに出逢わない。たいていの人は、客あつかいをしている最中に「永遠の生命とは?」なんて考えていたらお盆をひっくり返してボスのけんつくを食うのが落ちだと考えているらしい。さて今月号の「聖徒の道」の中に「永遠の生命」のことが書いてあるのはどこでしょう?

「若く見え長生きするには」という題名の本はゲイロード・ハウザー博士の著書で、栄養学と食餌療法とを誰にもわかるように巧みに説いたベストセラーである。日本では「ハウザー食」と言つて、今でもデパートや地下鉄の売店の一隅にはハウザー博士推奨するところの粉末醸造酵母、脱脂粉乳、小麦胚芽、粗製糖蜜などを並べている店があつてけつこう繁昌しているところを見ると、「ハウザー食御信心」の方々がなかなかたくさんあることを示している。ところがハウザー博士著わすところのベストセラー「若く見え長生きするには」の中に「智恵の言葉」が真理であることの証しがあるのをご存じですか。日本語版「若く見え長生きするには」の六十八頁に「モルモン宗徒は、開祖が健全な食事規則をきめていたので、同じアメリカ人よりもずっと癌が少ないのです」とはつきり記してある。癌研究の方々よ、「智恵の言葉」の研究もして下さい。

(佐藤竜)

彼は目的を達するために力を下さいと願つたところ、服従をするために弱くされた。もつと大きなことをするために健康をねがったところ、もつと良いことをするために虚弱を与えられた。幸福であるために富をねがったところ、賢明であるために、貧乏を与えられた。人間から讃められるために権力をねがったところ、神の必要を感じずするために、弱さを与えられた。人生を楽しむためにあらゆるものをねがったところ、あらゆるものを楽しむために人生を与えられた。彼はねがったもの、望んだものを一つも与えられなかった。しかし、彼の祈りは答えられた。彼は一番祝福されている。



系図に関する質疑応答

各支部の熱心な系図探求会員からの問合せで私の返答出来なかったものを

ソルトレーク市系図協会総書記、アーチボルド・F・ベネット長老に問合せ

せ回答していただいたものをその都度質問会員に御返事して来ましたが皆

様の御要求により御参考までに左にまとめました。

(渡部正雄)

一、問 結婚日は実際の結婚日か、戸籍上の届出日か。

答 確証ある時は実際の結婚日、得られない時はB₂として戸籍登録日を書く。

二、問 養親にシーリングされた時、血族の為に家族代表者となるか。

答 養子で養親にシーリングされた場合でも血統による先祖を深求しその家族代表者として彼らの為に神殿の儀式を執行してもらうことが出来る。

三、問 未信者たる夫の為に信者たる妻が記録作成出来るか。

答 妻(信者)が夫(未信者生存中)の家系の為に探求し記録を作成する時家族代表者を夫としてその下にF₂ (非会員と記す。子供が信者の場合は子供を家

族代表者とする。

夫(未信者)が死亡せる場合には子供がない限り妻は作成した記録を提出出来るが将来血族者が出て来て神殿の仕事を執行してもらうことを期待してファイルするに止る。

三、問 武士の殺人は殺人罪となるか。

答 武士であった先祖が乱時に殺人せるような場合、彼らがその殺人が大罪であることを教えられていなかったで、アルマ書のレーマン人の場合と同様許されて神殿の仕事は執行される。

四、問 失踪宣告日は判明しているが死亡日目の知れざる時如何にすべきか。

答 失踪宣告の日附のみ判明して死亡日の不明な時は死亡日附の欄に失踪(disappearance)としてその日附を記入

する。

五、問 テンプル・ファイル又はファミリ・ファイルはシートの何処に記すか。

答 テンプル・ファイルかファミリ・ファイルかは直接ファミリ・グループ・シートに記さず附箋をつける。実際に最近は両親祖父母、曾祖父母、及び家族代表者の子孫の少数の場合を除いて大部分は何等の指示もなく自動的にテンブル・ファイルに置かれる。

六、問 新仮名使いと旧仮名使い何れを用するか。

答 日本語の記録はすべて新仮名使いです。

七、問 家族代表者の住所に地方部、支部名を含めてとあるが何処に書くのか。

答 家族の記録上に支部、地方部名を用いず。

八、問 「シオン山の救手たち」の一二〇頁に関連し孤児は希望する人にシーリング出来るか。

答 聖徒たちがユタに来てから、自分

の先代又は二代に結び固めた後「ブリガム・ヤング」、「ジョン・テーラー」、「ウィルフォード・ウッドラフ」、「予言者ジョセフ・スミス」又はその他の人に養子縁組する風習が教会の中についた。一八九四年、ウィルフォード・ウッドラフに与えられた主の啓示により、この風習が訂正された。ウッドラフ大管長は次のように強調している。「我々は末日聖徒たちが今後出来るだけ遠く自分の系図を遡って、子供たちをその両親に結び固める連鎖を出来るだけ遠くまで及ぼす、これが主のその民に対する御意志である」と。

更に定められた教会の規則によれば、如何なる子供でも自身の実際の両親以外の人にシーリングする場合、このような非適正なシーリングは予め神殿の管理会長の許可を必要とする。

九、問 結婚式を教会外で而も新郎新婦の居住地以外の臨時的な場所で挙げた場合の結婚地はどうなるか。

答 実際に結婚式を挙げた場所の県、市町村名、教会で挙式した時は教会の住所。

十、問 記録提出後変更または追加記事のある場合訂正部分のみを通知すればよいのか新しく作成する必要があるのか。

答 家族の記録が既に協会官文庫本部の完成または未完成部にファイルされた場合はそれに記入すべき、追加事項（結婚又は死亡日等）のみを報告すればよい。もしも記録がパトロン部にファイルするだけの為に送られ、その記録のマイクロフィルムが撮られたのであったら、新しい訂正分の記録を作成して送らねばならない。何となれば既に撮られたマイクロフィルムに訂正箇所を挿入することは出来ないから。

十一、問 にんしん七ヶ月後の墮胎は殺人罪となるか、死産と記入してよいか。

答 我が教会は人はまだ生れない子供の生命をとる権利はないとの見地から墮胎反対を強調して来た。我々が死産と言うのは十分に成長した子供が何かの理由で出生前に死亡した場合を指す。

十二、問 儀式を執行してもらう為に提出する家族の記録の不完全限度。

答 すべての出所を探索して先祖に就ての出来る限りの情報を集めることが実

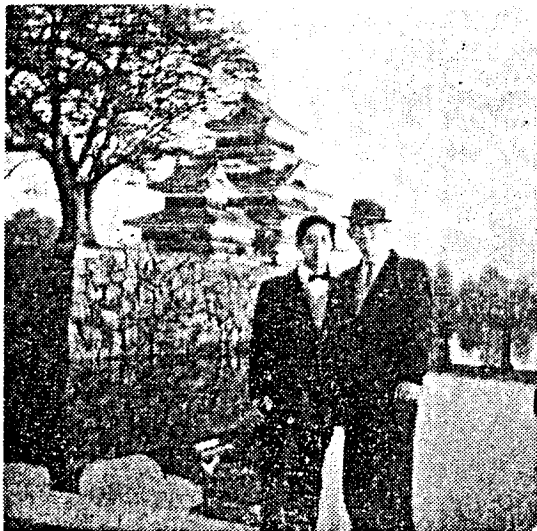
習標準である。もしも最善の探索を尽し、それ以上入手の見込みがない時はその旨附記して記録事務室に提出し、それが身分証明に充分なるか否かの決定を一任する。

神殿の仕事は結婚日がなくとも出生および恐らく死亡日があれば屢々執行されている。

十三、問 最善を尽して探索したが死亡月日が不明で且出生より未だ百年を経過していない場合、記録を提出してよいか、百年経過後を待つて提出すべきか。

答 死亡月日がなくとも神殿の仕事は執行されるが出生日後百年経過してからである。死亡月日発見に最善を尽し、これ以上見出される可能性ない場合百年経過せずとも提出してよい。当協会担当部に於て百年経過後、神殿の仕事執行の為に提出される。





松本支部

訪問記

渡部正雄

聳ゆる白雪の連峯に囲まれたロッキーマウンテンのソルト・レーク市に相對して丁度日本本土のほぼ中央に白雪に輝くアルプスの連山にめぐらされた松本市があり、その中央に、四大国宝の一つである松本城が躍進する時世を尻目にさむらい日本の面影をお濠の水面にうつしている。

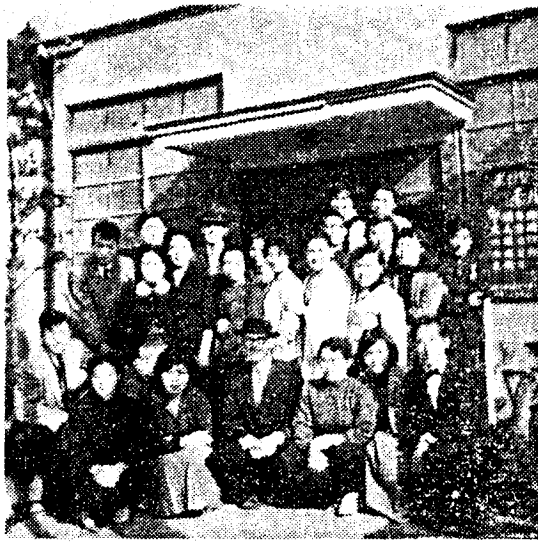
この松本市が今度ソルトレーク市の姉妹市として選ばれ先日、三十年前に日本に伝道し現在ユタ大学の総長であるA・レイ・オルピン長老がソルト・レーク市長よりのメッセーヂをたずさえて來訪し松本市長に手渡したのである。此の榮えある松本市に既に十年近く前からソルトレークから若い神の使者によって神よりのメッセーヂ福音がもたらされていることをまだ日本の皆さんは多く御存じないようだ。

高い山の嶺に昇った朝日に松本城が映える十一月八日安息日の朝八時半頃、街角から現れた一夫人が急いで安原公民館に駆けつけ手に持った鍵で戸を開けた。中は三十畳敷位の日本間だ、土屋姉妹はこれも又古風なお裁縫部屋にあるような坐り机をせつせと並べ始めた。その上に讚美歌が並べられやがて元気な信州子が三々五々に駆け込んで来る。九時か

ら子供の日曜学校が始まる。建物が目当りが悪い為とても寒い子供たちは熱心に讚美歌を歌い先生の話を聞く、大きい子供たちには藤井姉妹が救いの計画を教えていたがなか／＼熱心によく質問する。何だか明治維新を背負って立った薩長藩の英傑たちが子供の時に学んだ寺小屋を連想させる。今召されて神の王国に就て熱心に学んでいるこの子供たちが福音に新生する日本を背負って立つのである。

ニーフアイ第三書の十六章の一節から三節に「われはこの地にも在らず、エルサレムの地にも在らず、またわれがこれまでに行きて教え導きし地の近所にも在らざるほかの羊を持つ、その羊はいまだわが声を聞きたることもなくわれがかれらに現われたることもし、されどついにただ一つの群とただ一つの牧者のみあるに至るために、われがこの羊にも行きて、かれらがわが声を聞き、わが羊の中に数えらるるようにせよとの命を御父より受けたるによりてわれは行きてかれらに現われん」

とあるがソルトレークの盆地は第二のパレスチナだと言われているが此の松本の盆地も諏訪湖を控えて丁度その地形からすると第三の



松本支部日曜学校

パレスチナになるようではなからうか。
とに角今榮えあるソルトレークの姉妹市と
なった松本市に神の福音は声を大にして押し
進められねばならない。

大人の日曜学校は十時半から数はそう多く
ないが熱心な兄弟姉妹が集い桃瀬姉妹(年長)
と鎌倉兄弟の二つのクラスに別れて勉強する
日曜学校の出席者が殆ど聖餐式に残り一時
間近くの話熱心に聞いて下さった事はほん
とに嬉しかった。神権会は五時半から六時半
迄、新任支部長スミス長老を交えてブラン
チー・チングの組分けあり若い兄弟たちは非
常に活発にブラン・チー・チングをされて

いるようだ。続いて和田兄弟の熱心なレッ
ンが行われたが和田兄弟は教会迄二時間もか
ゝる道程を安息日には喜び勇んで主の御業に
いそしんで居られる。今夜は特に六時半から
八時迄系図の集会を開きましたが大勢参加し
て下さり、熱心に聞き又いろ／＼質問して下
さりほんとに嬉しく感謝した。

二人の求道者塚本さんと吉田さんが今日始
めて教会に來られたが聖餐式後、まだいろ
／＼お話を聞きたいので是非來て下さいと乞
はれるまゝに宣教師とお伺いした。お城のよ
うな大邸宅に驚いたが塚本さんがカトリック
にも新教にも満足出來ず真の福音を求めて祈
っている処に、そして塚本さんで働いて居
れるる吉田さんも不思議に塚本さんと同一心
になつて求めている時スミス長老とウイル
ック長老が訪れお二人とも祈りに答えての神
様の御使だとしてびつくりように真理を受入れ
れたと聞いて更にびつくりした。本日お二人
から書面をいただき吉田さんは十二月十二日
にめでたくバプテスマを受けることとなり塚
本さんは御主人の御許可を待つて受けること
となり、お二人とも目下熱心に家庭集会で勉
強して居られる趣ほんとに嬉しく存じて居る
姉妹市となつたおめでたい松本市のお祝とし



松本支部子供の日曜学校

て主がお二人を召されたのではないでだろう
か。

聖餐式後街頭伝道をしようと申し立ていたの
で熱心な兄弟姉妹は一生懸命私共を探して街
を歩いたと後で聞いて誠に申訳なくあやまる
と共に、信州子はんばりやだと聞いていた
がなるほどと喜び、ウイルコック長老は來週
必ずやりましようと思つていた。

ソルト・レークの神殿に呼応して松本城跡
に日本の神殿が聳ゆる日も夢ではないかも知
れない。

(前頁見出しの写真は松本城を背景に右スミ
ス長老左は筆者である)

若き末日聖徒の為の

モルモン経物語 (完)

エマ・マー・ピーターソン著
渡部正雄訳

モロナイのお別れ

モロナイ書、第十章

最後の、大激戦の後二十年間モロナイは生き長らえて地上をさまよいました。

彼は此の時迄その手に保持して来たすべての記録を封ずる用意をしました。封ずる前に彼は、モルモン經典の真実なることに就て最後の証詞を書こうと欲しました。彼は言いました。

「私はあなたたちに少しすすめをしてからこの記録を封じて隠す。ごらん私はあなたたちにすすめたい。あなたたちがこの記録を読むことを神が許したもうならば、あなた

たちは、あなたたちはこの記録を読む時に、アダムが造られてからあなたたちがこの記録を受けるまで、主が世の人々にどれほど憐みを垂れたもうたかを思い起して心の中に深く考えてほしい。またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上、キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が確なものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。そして聖霊の力によって一切の事の真実であるかどうかあなたたちに解る」と

そこで彼は聖霊の賜物に就て記して言いました。

「私はまたあなたたちにすすめる。神の賜物は多いが同

じ神が授けたもうからこの賜物を拒んではならない。この賜はさまざまに授けられるが、どの賜物もこれを授けて働かせたもうのは同じ神である。この賜物は人に益を与えるためであって神の「みたま」の現われに伴う。神の「みたま」によって智慧の言葉を教える能力を与えられる人もあり同じ「みたま」によってある人は非常に厚い信仰を、あ

る人は病を医す力を、ある人は大きな奇蹟を行う力がある人はあらゆる事について予言する力がある人は天使と使いの霊を見る力を、ある人はいろ／＼の異語を語る力を、またある人は外国語およびいろいろの異語を訳する力を与えられる。これらの賜物である力は、みなキリストの「みたま」から与えられ、キリストのみに従って分けられてそれぞれの人に来るのである。私の愛する兄弟らよ。私はまたあなたたちにすすめる。一切の善い賜物はキリストから授けられることを忘れるな」と

その後彼は又言いました。

「私はこれからの事を、あなたたちが忘れないようにすすめる。なぜならば、あなたがたが神の法廷で私と逢う時が運



に來て、その時主なる神が「この人の書きしわが言葉は、われが墓の中より叫ぶ者、または土の中より声を出して語る者と同じくこれを汝らに宣へ伝えしにあらずや」とあなたたちに印せになるので、あなたがたは今私が偽を言っているのではないことが解るからである」

イエスキリストに対する彼の証詞を述べた後彼は次の言

葉を以て書物を閉ぢました。

「さらば、すべての人たちよ。私はじきに行つて私の靈と私の体とが再び相合するまで神のパラダイスで安息に就く。私は勝利を得て空を飛んで来て生きている者と死んでいる者との永遠の裁判官である偉大なエホバの楽しい法廷であなたたちに逢うアーメン」

我等の時代の為の予言

ニーファイ第三書 第二十一章 ニーファイ第二書 第二十九章

イエスはニーファイ人の間に居た時、末日に於てアメリカに住むであろう異邦人にモルモン経典が与えられるであろうことを予言しました。

「また異邦人を経て以上のことが汝らの子孫に伝わるために異邦人がこの地に置かれて御父の能力によりて自由の国民となることは御父のみこころなるが故に、また以上のことと、将来汝らの中に行わることが、異邦人を経てその時すでに罪惡を犯して不信仰におち入りし汝らの子孫に伝わる時には、御父はその権能を異邦人に示したもうために、また異邦人がその心をかたくなにせざる時、異邦人が悔い改めてわれに立ち帰ることと、わが名によりてバプテスマを受けることと、わが教義の真意とを明らかに悟りて以てわが民なるイスラエルの家の中に数えらるるようになしたもうために、異邦人を経て以上のことが汝らの子孫に示さるることが肝要なりと認めたもう故に、以上のことと起

りて汝らの子孫がこれを知り始むる時は、その時が、御父がそのイスラエルの家にゆかりある者に立てたまひし誓約を果したもう御業のすでに始まりたることを知るために汝らの子孫に与えらるるしなり」

ニーファイ人達がアメリカに来て後すぐ主なる神さまは今日我々のこの時代に単にモルモン経典が与えられるだけでなく失われた十支族が書くであろう記録も与えられるであろうと啓示しました。彼はユダヤ人の記録即ち聖書は人類に与えられるであろうが、これ等の他の昔の記録も同様に末日に出版されるであろうと云いました。彼は次の通り言いました。

「見よ我ユダヤ人に語らばユダヤ人はそれを書き記し、ニーファイ人に語らばニーファイ人はそれを書き記し、われがすでにほかの所へつれ出したるイスラエルの家に属するほかの支族に語らば、かれらはそれを書き記すべしかくのごくにして、ユダヤ人はついにニーファイ人の書きし言葉を得、ニーファイ人はユダヤ人の書きし言葉を得、ニーファイ人とユダヤ人とはイスラエルの家の中の失われたる支族の書きし言葉を得、イスラエルの家の中の失われたる支族は、ニーファイ人の言葉もユダヤ人の言葉も得べし。しかしてイスラエルの家に縁あるわが民は自らの所有する地に集り、わが言葉もまた集りて一つ所にあるべし」

昔のユダヤ人の言葉は聖書となりニーファイ人達の言葉はモルモン経典の中にあります。失われた十支族の記録はまだ世に与えられて居りません。

(完)

伝道本部だより

任命

フアーレル・R・ハウキンズ長老
京城西支部長
パール・テイラー長老
京城中央支部長
アントン・アンドラス長老
仙台支部長
デビッド・ガンダスン長老
阿倍野支部長
メリヨ・オカハタ姉妹
伝道部書記

ローズ・ヒガ姉妹
東京中央へ
メリー・マックナグトン姉妹
東京中央へ
ヴァン・ダイク長老
旭川へ
ロバート・A・スラック長老
旭川へ
レイモンド・ササキ長老
仙台へ
リーロイ・フライ長老
京城東へ

ジエリー・ステイール長老
東京北へ
ピーター・ブラック長老
東京南へ
D・アレン・バカシー長老
東京中央へ

バプテスマ

上田和夫 旭川
比嘉幸子 普天間
岡田幾代 群馬
森久美子 広島
福原久美子 広島
上田欣一 名古屋
古芝健三 名古屋
大山よし乃 名古屋
山本修 名古屋
金城チエ子 那覇
国吉美智子 那覇
識名朝信 那覇
大谷エミヨ 新潟
清水美代子 新潟
田代稜子 小樽
盛代照子 小樽
山口雅枝 三ノ宮
木谷美枝子 札幌

中野正之 〃
渡辺和彦 〃
高橋勝俊 〃
齊藤曉 仙台
塚田恵子 東京北
塚田淑子 東京北
久本綾子 東京南
堀本寛 東京南
相良隆彦 東京西
柳本光散 〃
伊達菊乃 横浜
八代栄太郎 〃
他に韓国に十八名のバプテスマ
がありました。

神権

伊藤ヨシヒコ 旭川
小田原マサトシ 〃
加藤武行 〃
浜浩一郎 金沢
小畑雄一 岡山
伊藤勝幸 札幌
高橋良臣 札幌
荒井勲 横浜
◎教師
深江ヒロシ 阿倍野

タワラマサル 旭川
武田憲二 普天間
潟沼一利 小樽
◎祭司
八木沼修一 名古屋
河村雄弘 岡町
潟沼誠二 小樽
松下山雄 札幌
日野義三 仙台
◎長老
伊藤正七 名古屋
大橋中八 新潟
藤井タツオ 岡町
前芝康夫 三ノ宮
蛭川健 〃
小島カシミ 札幌
松下泰洋 札幌
遠藤肇 仙台
結婚
仙台支部の福田濃兄弟は九月十五日佐々木八重子姉妹と結婚された。
東京中央支部の九山周兵兄弟は内野登江姉妹と九月二十五日に結婚された。

ベenson長官ロシヤで説教する

木曜日（十月一日）の夜はクレムリンの蔭に在る中央バプテスト教会で特別な集会が行われた。約千名のロシア人が一組のアメリカの旅行者の参加の下に神を礼拝せんとして集合した。

神の礼拝はソビエト聯邦では奨励されていなかった。その為政者たちは無神論を教えるように要求している。

一人のアメリカ人が説教壇に招待された。

彼は会衆を見渡した。そして明らかに彼の心は感動した。彼は感情をこめて彼のモスコフ訪問と彼がロシアの民に就て如何に思っているかに就て告げた。彼は言った。

「私は貴方たちが祝福され貴方の国に対し
善良な市民であるように望みます。けれど
も、貴方たちの信念に真実でなければなりま
せん」

「神は生きていま
す。私は神が生きてい

ますことをまた、イエスがキリストで世の贖主であることを知っています。恐れることなく誠命を守りなさい。」

語り手はアメリカ合衆国の農務長官である
エズラ・タフト・ベンソンで末日聖徒イエス
・キリスト（モルモン）教会の長老である。

彼は三人の家族と四人の農務省随員と十人の新聞報道員と共にヨーロッパへ友好通商の途上にあつたのである。

彼の言葉は強い衝撃を与えた。礼拝者の眼から涙が流れた。話が終ると会衆は立上つて「再遇う日まで」の讃美歌を歌つて彼に感謝した。そして彼等は別れのハンカチを振つたのであつた。

アメリカ人たちが扉の方へ進んで行くと、この立去らんとする旅行者たちの手を握ろうとして多くの手が殺到したのであつた。そしてその行為は言葉より多くのものを物語つてゐた。

レイトン・ステーク部のデビッド・E・レイ

トン長老は教会内で最年長の祝福師であるが、このたび自宅で九十九回目の誕生日を迎えた。

彼は一八六〇年ユタ州のケイスヴィルで、クリストファー・バーネス・レイトン夫妻の子息として生れた。彼は一九三一年五月十日ステイヴン・L・リチャーズ長老によつて祝福師に任命された。

南部極東伝道部のグラント・ヒートン伝道

部長はこの度解任され、去る十一月二十日帰国された。在任中は伝道に、またモルモン經中国語訳に専心奉仕された。なお後任の伝道部長のロバート・S・テイラー長老は約二ヶ月前来任し、南部極東伝道部の任務を引き継ぐ。

モルモン経六冊、フルシチヨフ一家に贈呈

ニキタ・フルシチヨフソ聯首相の家族は六冊のモルモン経を受取った。

この贈呈はニキタ・フルシチヨフ夫人とその婿、イズヴェスチャの主事アレクセイ・アジュベイおよびその他のフルシチヨフの家族たちがエズラ・タフト・ベンソン長官の息子リード・ベンソンとその妻及び長官の娘ビウマリートと共にブレイヤ・ハウスに行った時に四十分間の談話の後になされたものである。

一行はワシントンに帰る前にフルシチヨフ首相とベンソン長官のミンダナオ・ベルツヴィルの農務省中央試験場視察に随行したのであった。

教会に就ての会話はベンソンが首相の家族は、モルモンの家族のように大家族だと言ったことから始まった。アジュベイ主事は通訳を通して、熱心にモルモン教に就て多くの質問をした。ベンソン兄弟によってその答えがなされた後、フルシチヨフ夫人は、ソルト・レーク・タバナクル・クワイヤを非常に褒

め、彼らがうわさに聞いていた「よいユタの空気」に就て問ねた。

談話中にフルシチヨ

フの婿とベンソンとの間に神に関しての彼等の信念に就ての意見が交換された。ベンソンは神の個人的実在と、その御子、イエス・キリストの使命に就てのモルモンの信念に就て告げた。

アジュベイはロシアのギリシヤ正教の神に対する概念の貧弱なことがロシアに於ける共產主義を強化したのと言った。この時英語のわかるフルシチヨフ夫人はほゝ笑んで婿を警告して言った。「貴方注意しなさい何だか彼（ベンソン）に感化され始めたようだから」

そこでアジュベイはベンソンに「我々は此の世の責任をとるから貴方は来世の責任をとってくれ」と告げた。

什分の一、智慧の言葉、その他の教会の教義に就ても討論がなされた。共產黨員でないアジュベイ夫人は智慧の言葉に非常に興味を持ち「その言葉は気に入った」と言った。

彼女の夫は什分の一と教会々員の此の誠命

を守る意欲に就て懐疑的であった。そしてアジュベイは彼がよくないモルモン信者を知っているが教会はこのような教義の原則を守れない者をどう取扱っているかと問ねた。そこでベンソンは悔改めの原則を説き、よい資格ある会員となるにはそのような者は心から悔改めなければならないと指摘した。

それから主筆がベンソンに「共產主義になりたくないか」と問ねたのに対しベンソンは逆に「モルモンになりたくないか」と言つて「ブディングの味は食べて見なければわからない」と付け加えた。

若い長老はそれから予言者ジョセフスミスたちのことや教会が如何にして回復され組織されたか又教会の権能の背景に關しその概略を説明した。

フルシチヨフのこの訪問に就てデゼレト・ニュースに電話で報告する時にベンソンは、首相夫人は結論して「貴方たちは断乎たる意志を持った民だ」とほめたと言つた。

アジュベイはベンソンに後で六冊のモルモン経を送ってもらい家族に分け与える為にその住所をベンソンに書き残した。彼はまた長官の息子にロシアに来て貴方の教会の伝道の仕事をするように招待した。

(九月十九日付チャーチ・ニュースより)

★ 海外トピックス ★ ★ ★

支部所在地

阿倍野 大阪市東住吉区田辺東町七ノ二
旭川 旭川市八条五丁目
福岡 福岡市薬院大通二ノ五五
群馬 高崎市並榎町二七五
広島 広島市古田町古江四〇〇ノ三
金沢 金沢市成瀬町一ノ四 野田方
甲府 甲府市富士見町一
松本 松本市沢村一六〇四
室蘭 室蘭市幸町八九
名古屋 名古屋市昭和区北山町三ノ四一
新潟 新潟市中大畑町五五七 金井方
西ノ宮 兵庫県西ノ宮市田代町一一一
岡町 大阪府豊中市岡町北二ノ一八
岡山 岡山市国富一ノ一九 丹下方
小樽 小樽市富岡町一ノ三五
三ノ宮 神戸市灘区篠原本町四ノ三五
札幌 札幌市北二条西二四丁目
仙台 仙台市光禅寺通り二八
東京中央 東京都渋谷区八幡通一ノ三四
東京北 東京都豊島区椎名町四ノ二〇六八
東京南 東京都大田区南千束町二四九
東京西 東京都武蔵野市吉祥寺三六八
山形 山形市諏訪町三九七
柳井 山口県柳井市今市三九一
横浜 横浜市中区磯原町二九
普天間 沖縄宜野湾村野嵩区三二八
那覇 沖縄那覇市松尾区一三九

編集後記

神聖なクリスマスの精神が次第に薄れて行つて、ちまたに溢れているのはたくましい商魂に利用されたクリスマスの騒々しい欲楽と、きらびやかな物質的華やかさのすがただけであります。冬の夜空に輝やくベツレヘムの星はどこへ行つてしまつたか。もう一度静かな深い夜空の果てを眺めましょう、救いを求める人々の心をほのぼのと暖めてくれる光を求めて。

(佐藤竜)

モルモン経物語を長期間に亘つて愛読して下さったことを感謝します。丁度掲載中に著者のピーターソン姉妹が本伝道部を訪問して下さった事も誠に幸運であつたと感謝して居ります。本年を以つて終了させる為半年分を省略しましたが来年早々全部を一巻にして本部に於て出版される予定ですから愛読の書として皆様の机上に飾られるよう期待して居ります。

渡部



12月表紙“ホーリー・ナイト”
マーティン・フルスイタン画

月刊「聖徒の道」第三卷第十二号

一九五九年十二月一日発行

実価 一ケ年 三百円

一部 三十円

編集兼
発行人

ポール・C・アンドラス

発行所

東京都港区麻布広尾町十四

末日聖徒イエス・キリスト教会

北部極東伝道部

内 案 書 図

教義と聖約	高価なる真珠	モルモン経	教義と聖約	高価なる真珠	モルモン経	完成への道	初等協会教科書	総合聖句の手引	日本系図探究要覧	聖典中の指導者	家督権の祝福	扶助協会手引
合本	合本											
.....												
一一〇〇円	三〇〇円	二〇〇円	一〇〇円	二〇〇円	一五〇円	一五〇円	一五〇円	一五〇円	一〇〇円	一五〇円	一〇〇円	五〇円

日曜学校用

福音と生活	古代アメリカの生活	旧約聖書物語
.....		
一〇〇円	一〇〇円	一五〇円

M I A 用

役員と指導書の手引	我らは奉仕する	Mメン・グリーナーの手引	演劇指導者基礎知識と脚本集	演説が上手になる法	社交ダンス必携	新しいフォークダンス
.....						
一〇〇円	一〇〇円	一〇〇円	七五円	一五〇円	一六〇円	五〇円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌	末日聖徒讃美歌拔萃	子等は歌う	レクリエーション歌集
.....			
三〇〇円	三〇〇円	一〇〇円	四〇〇円

航空界のリーダー パンアメリカンが誇る！

JETS

全世界を結ぶ
ジェット クリッパーの航空網——



パン アメリカンのジェット クリッパー* は太平洋と大西洋を結び、アジアとヨーロッパの両大陸を横断、その上、北極もとんでいます。南米に於ても、パンアメリカンのジェットクリッパーはニューヨーク、ブエノスアイレス間を時速1000キロで往復しています。



詳細は最寄りの航空代理店又は弊社営業所で承ります

東京・千代田区丸の内三菱商事ビル 電話(211)2441

大阪・北区中之島大阪グランドホテル 電話(26)6048—9

世界で
最も経験ある
航空会社

*合衆国特許局登録商標